

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 株式会社 日本ラチーノ学院

1. 事業の趣旨・目的

滋賀県の集住地区〔東近江市、甲賀市、湖南市、長浜市〕に在住するブラジル人の子どもたちや父兄たちが定住生活者として必要な日本語や文化・習慣・常識を習得し、今後日本社会の一員として日伯交流がスムーズに行われ、近い将来の多文化共生の社会に寄与する人材を養成する。その為には学力増が求められている。まず日本語の習得が先決であり不可欠である。また、より良く日本を理解するには日本の教科の学習も必須条件となるので一人一人の進路やレベル、希望に沿った学習指導をすることで目標を着実に叶えて行くことを目的とする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
23 年 4 月 2 日 (対象期間 前)	日本ラチーノ 学院 会議室	中川 宜一 山本 晴夫 田中 美果 中川 美子 他委員以外の 出席下記 2 名 上村 カイオ 古川 ノエミ	教授者、補助者担当 の確認 生徒募集の方法 指導法、クラス編成 謝金支払方法 教材選出について	主任教授者を古川ノエミとし、上級クラスを主に担当 名簿や生徒の情報により 電話にて勧誘する。チラシ を集住地区に配布する。 謝金は半期(6ヶ月毎)払 学院関係者の謝金は対象 外とする。良い教材を使 う。

23 年 8 月 6 日	日本ラチーノ 学院 会議室	中川 宜一 山本 晴夫 田中 美果 中川 美子 他委員以外の 出席下記 2 名 古川 ノエミ 千葉 ルイ ザ 容子	受講生の日本語習熟 度の報告と対策 社会人の出席率の改 善と指導方法 送迎車の交通安全 今後の指導方針とプ ログラム確認 進路、家庭相談	小・中 学生は出席率は良 高校生は日本在住期間も 長く理解力は優れている。 日本の外国語大学を目指 す者はレベルも高い 社会人には日本語の必要 性を説き継続を促す。 交通規則を指導 日本語習熟度によるランク 別指導が顕著になってくる のでプログラムの完全消 化とレベルアップを目標 家庭の事情を把握する。
24 年 3 月 19 日	日本ラチーノ 学院 会議室	中川 宜一 山本 晴夫 田中 美果 中川 美子 他委員以外の 出席下記 2 名 古川 ノエミ 千葉 ルイザ 容子	教室の成果と反省点 進学者(高校・大学)に ついて 進級者(小・中学生)へ のサポート 来期の教室再開につ いて	受講した者は将来に繋がる 効果(就職や進学)が高くな った。これからも継続して 日本語を学習すれば将来の 展望が広がる。 進学希望者には、京都外国 語専門学校へ入学(現時点 では 2 名が入学済) 2 年後京都外大に編入 進級者は殆どブラジル学 校に進級する。公立校進 級希望者は IOM 主催の 「虹教室」(近江八幡人権セ ンターが開室)より進級 来期の開室再開について は、教授者、補助者の意向 を十分に斟酌する。

3. 日本語教室の開催について

(1) 講座名 日伯交流教室

(2) 開催場所 滋賀県近江八幡市出町 123 番 1

(3) 学習目標

ひらがな、カタカナ、漢字の書取り、歴史、社会、算数、一般常識、簡単な読み書など日本語の学力を増進することは第一の目的であるが、日本の文化・伝統・習慣を取得させて日本の子どもたちや近隣の日本人とスムーズな交流を促進する。

リーマンショックによる不況の影響で当校の生徒約 200 名が公立校へと転校したが、日本語が理解できないので授業についてゆけない生徒が多数見受けられる。この子どもたちの日本語能力をこの教室で高めたい。

ブラジル人コミュニティと職場だけで生活をしている社会人には、日本語を習得することのメリットを体感させることにより学習意欲を湧出させる

高校卒業者(ブラジル人学校昨年 12 月卒業生)のうち大学進学を希望する受講生には進学の道筋を日本ラチーノ学院と連携して設ける。

以上のような目標に沿いプログラム・カリキュラムを設定し、指導をする。

(4) 使用した教材・リソース

教授者、学院が作成した自作の教材・ノウハウ

スリーエーネットワーク(みんなの日本語・子どもの日本語)

メウアミーゴカンジ(東京外国語大学・多言語・多文化教育研究センター)

はじめてのひらがな・はじめてのカタカナ(学習教育出版)

国語(東京書籍・凡人社・大阪書籍) 社会(東京書籍・第一学習社)

理科(啓林社・盟友出版) 地図帳(東京書籍・帝国書院)

歴史(三省堂) 算数(大日本図書)

(5) 受講者の募集方法

当校在学中の生徒や日本の公立校に転校した生徒に直接呼びかける。在校中の生徒意外は電話による教授者からの勧誘が最も効果的である。

ブラジル人集住地区にチラシを配布する

(6) 受講者の総数 21 人

(出身・国籍別内訳)

ブラジル国 21 人

(7) 開催時間数(回数) 88 時間 (全 44 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
1 ～ 2	4月23日 4月30日 10:00~12:00	4時間	20人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	ひらがな学習 易しい漢字 はじめてのひらがな教材使用 50音反復練習 子どもの日本語
3 ～ 6	5月7日 5月14日 5月21日 5月28日	8時間	21人 21人 20人 19人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	カタカナ学習 自分の名前を書く 漢字の練習 能力別クラス編成 はじめてのカタカナ教材使用
7 ～ 10	6月4日 6月11日 6月18日 6月25日	8時間	20人 18人 20人 20人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	カタカナ学習 自分の名前を書く 漢字の練習 能力別クラス編成 言葉を習う会話 みんなの日本語 はじめてのカタカナ教材使用
11 ～ 15	7月2日 7月9日 7月16日 7月23日 7月30日	10時間	19人 19人 18人 19人 18人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	カタカナ学習 学習用語の習得 文章の理解度テスト 言葉を習う会話 みんなの日本語 日本の歴史、習慣 長文を読む 正しく書くカタカナ教材使用
16 ～ 18	8月6日 8月20日 8月27日	6時間	19人 18人 17人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	会話の反復練習 学習用語の習得 完成ひらがな 言葉を習う会話 みんなの日本語 日本の歴史、習慣 読み書き反復練習

						正しく書く漢字 教材使用
19 ～ 21	9月3日 9月10日 9月17日	6時間	19人 20人 20人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	作文 みんなの日本語初級 社会科の学習 完成ひらがな 生活言語 読み書き反復練習 正しく書く漢字 教材使用
22 ～ 26	10月1日 10月8日 10月15日 10月22日 10月29日	10時間	19人 20人 20人 19人 18人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	作文 家にある物 みんなの日本語初級 社会科の学習 日本語で話そう 日本の食べ物 読み書き反復練習 教材使用
27 ～ 30	11月5日 11月12日 11月19日 11月26日	8時間	20人 20人 18人 19人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	履歴書を書く 正しい漢字 文法の基礎 日本語で話そう 語彙を正しく理解 学力審査 同音異語 教材使用
31 ～ 33	12月3日 12月10日 12月17日	6時間	19人 19人 19人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	4桁の数字日本語 長文を読む理解力 住所を漢字で書く 長文を読む理解力 日本語正しく学ぶ 6桁の数字日本語
34 ～ 37	1月7日 1月14日 1月21日 1月28日	8時間	19人 19人 20人 20人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	履歴書を書く 長文を読む理解力 住所を漢字で書く 長文を読む理解力 日本語正しく学ぶ 昨日のことを日記
38	2月4日	6時間	20人	ブラジル国	教授者5人	履歴書を書く

～ 40	2月18日 2月25日		19人 19人	ポルトガル語	補助者1人	長文を読む理解力 住所を漢字で書く 長文を読む理解力 日本語正しく学ぶ 昨日のことを日記 理科の学習
41 ～ 44	3月3日 3月10日 3月17日 3月24日	8時間	19人 20人 19人 20人	ブラジル国 ポルトガル語	教授者5人 補助者1人	初級でよむトピック みんなの日本 語初級 面接練習 理科、社会科復習 父兄面談 日本語正しく学ぶ 受験準備進路相談 京都外国語専門学校訪問〔受験生〕 お別れ会 教材使用

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

写真①視聴覚教室で映像を見ながら楽しく学習



②受講生の内2名が京都外国語専門学校に入学しました。
合格したS君とY君入学式での1枚



- ③ 井上 教授者 小学校低学年 の子どもには丁寧に指導します。



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

約1年間の全課程が終了(対象期間外の23年4月9日、16日を含む)教授者、補助者、他スタッフの重点的、集中的指導により受講終了者は、確実に以前に比べて日本語の能力がアップしたことは、顕著である。

(2) 学習者の習得状況

現役の小学生、中学生、高校生は理解度が高く、読み取り、書き取りの反復練習や教科の学習にも欠席者は少なく学習意欲は旺盛である。将来の進路の広がりが期待できる。

日本の大学に進学を希望している高校卒業生[23年12月卒]のうち2名は元々日本語の能力は高く目的意識もあり、期待以上の習得が見受けられる。

それに比べてやや、学習意欲の低下が見受けられるのが社会人である。リーマンショックの解雇の篩いからは残ることが出来た優秀な方々だが、東日本大震災による生産減少、電力不足などにより月収が大幅減収になり、学習は二の次になったと思われる

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

現在日本に在住する日系ブラジル人の殆どが製造業の現場で働いており、景気の波に左右され、失業や大幅な収入減少を余儀なくされている現状を考えると職業選択の幅を広げなくては、子どもたちの将来が懸念される。

日本語や日本の教科を学習し、ポルトガル語も日本語も理解できれば、公的な資格や、日本の大学への道が近くなり、安定した収入に繋がるようになる。

この教室での学習により日本語の能力がアップしたことは明らかであるが、教室での体験が単に知識の詰め込みではなく友達や指導者とのふれ合いに依りこれから日本で生活して行くうえの大切な事柄を実感し、理解することが出来る。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

財団法人近江八幡人権センターとの連携による IOM 主催の「虹の架け橋教室」にも当校より受講生を入室させており、公立校への転入学を促進している。

滋賀県の観光交流局とも綿密に連携し、県主催の国際行事に参加をすることで交流を深めている。

長年の実績が認められこの学院のシステムが準学校法人・各種学校（別格の法人）として滋賀県より認可された。

(5) 改善点、今後の課題について

① 現状

この教室を開室する前に東日本大震災が発生した影響で受講生や父兄に少なからず不安と将来の行く末を懸念する心理が増大したので保護者（両親）が自分の子どもの教育に関心をもつようになった。

しかし、教育にはお金が必要であるが、この教室は無料なので学習意欲のある子どもを、継続してこの教室に通わせている。

幼稚園クラスから高校生高学年まで対応ができる。

② 今後の課題

滋賀県の交通機関の不便さがネックになっている、公立校と違い近隣地域から来るのではなくて滋賀県全域から通って来る為、土曜日・日曜日が休日であれば両親のどちらかが、くるまで連れてくることができるが、震災の影響で土・日は仕事に行くので4月、5月は送迎のワゴンを運行して一部の子どもを通室させた。送迎の費用が嵩むと教室の予算に影響を及ぼす。

社会人の集め方を再考して学習意欲を増進させる必要がある。

③ 今後の活動予定、展望

この教室もブラジル人の塾的存在としての必要性は大きな点があり継続することをむしろ求められているので、経済面、人材面では苦しい点もあるが、教育への熱意と受講生の学習意欲があれば自ずと継続は可能になる。

次回は学校法人として申請して開室したいと考えている。